OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	河本敦夫先生を悼む　ご経歴
Author(s)	上平, 貢
Citation	デザイン理論. 1987, 26, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52623
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

河本敦夫先生のご経歴

謹しんで茲に河本敦夫先生のご経歴を申し述べます。

先生は明治43年１月31日，愛知県に生れられ，第三高等学校を経て昭和10年３月京都帝国大学文学部哲学科を卒業されました。同大学の副手ならびに教務嘱託の後，昭和17年高野山大学教授に任ぜられ，つづいて昭和23年京都工業専門学校教授に着任されました。同24年国立学校設置法の公布により京都工芸繊維大学教授を兼ね，昭和25年同大学工芸学部教授に配置換えとなられました。そして昭和48年４月京都工芸繊維大学を停年ご退官，同時に同大学名誉教授となられました。その後49年より大手前女子大学教授に就任，55年５月にこれを辞され，爾後研究と著述に専念されました。

先生は厳正な学風，斬新な学識，そして高邁な人格によって永年にわたり学術の振興ならびに後進の育成と大学運営の任に当ってこられました。特に京都工芸繊維大学においては評議員，附属図書館長，大学院委員等の要職を歴任されるとともに意匠工芸学科の創設と発展に格別の貢献をされました。先生は京都工芸繊維大学工芸学部及び大学院工芸学研究科のほか，同大学繊維学部さらに京都大学文学部，大阪大学文理学部，京都学芸大学，同志社大学文学部，関西学院大学文学部，京都府立医科大学，九州芸術工科大学等の教壇にも立たれ，広く美学・美術史学・文芸学・工芸美学・映像論等を講述し，多くの学徒に深い感銘を与えるとともに人材の育成に盡悴されました。

一方，学会におきましては昭和24年に美学会，昭和33年に関西意匠学会（現意匠学会）のそれぞれの発足とその後の運営に常に委員として中心的活動をつづけられました。殊に意匠学会では，昭和51年11月から会長代理となり，昭和53年４月から59年までの間２期にわたって会長の重責を果されました。また京

都国立近代美術館運営委員，毎日美術選抜展や京都新聞秀作展の推薦委員も勤められ，現代の美術文化の向上に寄与されました。

河本先生は，初め日本上代の詩歌や説話文学に関する美学的解明を試みられ，『日本文芸史論』を上梓されました。つづいて日本の佛教思想について造詣を深め，空海の思想と芸術に照明を当て東洋文芸の基本構造を論究されました。『天平芸術の創造力』は芸術創造の契機を宗教のみならず社会的基盤との動的な関係に尋ねられた初期の意欲的な論考でありました。

その後の研究は次第に芸術のジャンルを拡大して現代の思想と状況にも向けられ，共著『西洋美術史』中の20世紀の美術や，先生が編著者となられた『現代芸術－七つの提言』を世に送られました。先生はこの間『芸術作品とその場所』を発表され，自ら「行為論的芸術学」と名づけられたこの著作によって昭和37年３月京都大学から文学博士の学位を贈られました。また昭和48年に刊行された『現代造形の哲学』は今日の美術現象の真相を解明する新しい原理を探究するとともに近代デザインの本格的な理論研究を試みられた画期的著述でありました。このほか多くの著書や多数の論文を発表され，晩年まで旺盛な学術探究の炎を燃しつづけられ，遂に『芸術と遊戯』の遺稿論文集を私たちに残して今遙か遠く旅立たれました。

敬愛してやまない河本先生のあの温顔と美しく響くお声を偲びつつ，深く哀悼の意を捧げますとともに謹しんで先生のご冥福をお祈り致します。

昭和62年５月21日

上　平　　貢

合　掌